

【別紙1】各グループの再エネへの取り組み

・Daigas グループ

大阪ガスは、GPSS と 2021 年 6 月に中小型太陽光発電所の共同開発に関する合意書を締結し*¹、再エネ電源の普及拡大に向けて検討を進めており、本事業はその一環となります。また Daigas グループは、2021 年 1 月に「カーボンニュートラルビジョン」を発表し、再エネや水素を利用したメタネーションなどによる都市ガス原料のカーボンニュートラル化、および再エネ導入を軸とした電源の脱炭素化によって、2050 年のカーボンニュートラル社会実現を目指しています。一方で、カーボンニュートラル社会実現のための技術革新には多くの時間や社会的コストがかかることから、マイルストーンとして、2030 年度までに自社開発や保有に加えて、他社からの調達も含めて、国内外で 500 万 kW*²の再エネ電源の普及に貢献することを掲げています。現時点で、自社開発・保有および他社からの調達を含めた再エネ電源の普及貢献量は約 150 万 kW です。

・GPSS グループ

GPSS は、大阪ガスと 2021 年 6 月に中小型太陽光発電所の共同開発に関する合意書を締結し*¹、再エネ電源の普及拡大に向けて検討を進めており、本事業はその一環となります。サステナブルな社会の実現に向けて、太陽光・地熱・水・風・廃棄物など、枯渇させることなく活用し続けられるエネルギー（サステナブルエネルギー）による発電事業を、資源を保有する地域との共同事業で推進しています。

・東急(株)グループ

本事業は、2022 年 3 月末に発表した「環境ビジョン 2030」で脱炭素・循環型社会の実現に向けて定めた「アクション 11」のうち、「再エネを創る」取り組みの推進となります。東急(株)グループは、これまで「人と街と環境の調和」を大切にしながら、まちづくりを進めてきました。環境先進都市に向けた渋谷のまちづくりからは、官民連携による渋谷川の再生など都心の自然共生を実践する「渋谷ストリーム」。駅・商業施設（グランベリーパーク）・公園が一体となった新しいまち「南町田グランベリーパーク」。2023 年 4 月に開業予定のホテル×エンタメ施設からなる超高層複合施設「東急歌舞伎町タワー」。渋谷・東急線沿線・新規事業において、地域と一体となってまちづくりを進める象徴的な 3 施設での本事業を通じて、東急(株)グループが目指す環境と調和する街への足掛かりとしていきます。

* 1 : 大阪ガスと GPSS ホールディングスによる中小型太陽光発電所の共同開発に関する合意書の締結について（2021 年 6 月 22 日 発表）

https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2021/1296103_46443.html

* 2 : 再エネには、太陽光、風力、バイオマスなどの FIT 制度の適用電源を含む